

正式には『流行性角結膜炎』という病名で、アデノウイルスと呼ばれるウイルスの感染が原因で、結膜や角膜に炎症が起こる病気です。夏場に流行する傾向が強い病気です。

感染すると、5日～2週間の潜伏期間の後、「まぶたの裏にブツブツができる」、「目やにが出る」、「涙が出る」、「まぶしい」などの症状が現れます。症状がひどくなると、出血、耳の前のリンパ腺（耳前腺）の腫れ、まぶたの急激な腫れ、結膜浮腫（白目がぶよぶよしてくる）、充血、発熱がみられるようになります。



現時点では、はやり目の原因であるアデノウイルスに対して有効な薬剤はありません。アデノウイルスの感染を確認するためにも眼科受診による正しい診断は大切です。

はやり目自体は3週間ほどで自然に治りますが、別の細菌などの混合感染を予防するために、抗菌薬の点眼を行います。また、角膜の濁りがみられる場合には、ステロイド薬の点眼を行います。

はやり目は、学校保健安全法により、感染力がなくなると医師が判断するまでは学校へ出席できない疾患に指定されています。大人の場合も感染を広げないために入社を控えましょう。

アデノウイルスは、伝染性が非常に高いウイルスで、主に手を介して伝染します。はやり目を家族にうつさないために、あるいは家族内でうつらないために、次のことに注意しましょう。

- ①手で目をこすらないようにしましょう
- ②手や顔を拭くタオルはほかの人と共有しないようにしましょう
- ③患者さんもその家族も流水やせっけんでよく手を洗いましょう
- ④めやに、涙を拭くときはティッシュペーパーなどの使い捨てのものを使用し、他の人が触れないように気を付けて捨てましょう
- ⑤お風呂は患者さんが最後に入りましょう またプール、銭湯はやめましょう

引用文献：千寿製薬 HP